

第1号議案 2013年度 事業報告

1. 事業実施報告

私たちは開設16年目、法人格取得後12年目となりました。事業高 46,045,041 円
計画比 127%達成しました。

今年度はヘルパーの人手不足のため、重要課題としてヘルパーを増やす努力を実施しましたが、解決には至らず今後の継続課題となりました。

助け合いサービス事業(移送サービス含む)は、介護保険を補う地域社会資源として、掃除・子供の世話・病院内介助・外出介助・介護保険併用の乗降介助など毎月 10 名程度おり、「困っている人たちのお役に立ちたい」という想いを発揮することが出来ました。急な依頼は対応できない時もありましたが、出来るだけ調整を行ってサービスの提供ができるように努めました。今後も私たちの原点となっている助け合いサービスを継続していきます。

居宅介護支援は常勤・非常勤 3 名で利用者に満足なサービスが提供できるように調整を心がけました。毎月のケアマネ会議・事例検討会・朝のミーティングで連携を図るなど、困難な事例を出し合って解決が出来るようにしました。研修会・講演会などは積極的に参加を行い、レベルアップの向上に努めました。

今年度も震災の緊急時対応の場合に備え、独居・日中独居の利用者リストの見直しを行いました。

11 月にアンケート調査を実施しました。前回より数多くの貴重な意見を頂きましたので、今後は更に必要に応じて助言・情報・提案などを積極的に提供していきます。

今年度は常勤ケアマネの増員が出来ませんでした。今後の事業を見据えて継続して増員を目指していきます。

訪問介護は、喀痰吸引等事業者登録を行い、許可を得て H25 年 9 月から 2 名がケアに入り、家族・往診医・看護師の協力の元、喀痰吸引・経管栄養等を行っています。

平成 25 年 12 月に訪問介護利用者アンケートを行いました。72%の回収率で数多くの貴重な意見を頂き、改善できることから実行しています。

ヘルパー不足は、新規の依頼を引き受けることが難しい状況になりました。ヘルパー募集のために就職説明会(川越)に参加、玄関入り口「のぼり旗」でアピール、3,000 枚チラシ巻きなどを行ないましたが、人手不足は続いています。

研修については、年間計画に沿って行っています。が、問題点が見つかったら早速研修に

取り入れ、柔軟な対応を心がけました。特に現場に活かす研修を中心に、実技・グループワークにて発表するなど、レベルの向上を目指しています。

障害福祉サービスは、同行援護利用の申込が増加しました。利用者が2名増え、収入は昨年の190%増となりました。しかし長時間のサービスの対応ができる者が少なく、対応に苦慮しました。

また、重度訪問介護の利用を引き受けました。医療、多くの事業所との連携にてOJT(現場における実地訓練)を行いました。ヘルパー不足が影響し、継続が難しくなっています。

生活サポート事業については、今年度は記録的な大雪が2回もあり、駐車場の雪かきに追われました。冬用タイヤでも対応できないくらいの雪の量だったにもかかわらず、学校は休校になりませんでした。事故なく送迎ができました。利用者数は昨年同様でしたが、2名の利用者が3月に卒業しました。

運転手については、秋に1名有償ボランティアをお願いをすることができ、人員の確保ができました。来年度は、新規2名の送迎が決まって、更に1名有償ボランティアをお願いすることになり、今後も継続的に活動が出来るようになりました。

福祉有償運送については、介護保険利用ができない方で、車と運転手の都合がつく近場のみの利用に限らせていただきました。収入は年々減少傾向にありますが、利用される方は、予約制なので安心して利用していただきました。

地域ニーズに即したディサービス事業については、理事会において新事業構想案を出し合い、前に進むために情報収集するなど検討を繰り返し行いました。その結果、期間限定で空き家物件を借りて、業務連絡会や週1回程度の「カフェ」などをスタートすることに決め、私たちが出来るところから、始めてみることにしました。

私たちは、地域福祉の発展向上に寄与する目的の使命感をもって活動をしています。今後も安心して暮らし続けるための必要なサービスが提供できるように、福祉関連事業所などとの連携を図りながら、事業安定維持向上に努め、新事業が具体化に向けて実現できるように進めていきます。